平成２０年３月 発行　社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

1．建築物の構造内容

（1）建築場所　沖縄市越見里二丁目１番１号
（2）工事種別　□新築　■増築　□増改築　□改築
（3）構造種別
□木造（W）　□補強コンクリートブロック造（CB）　■鉄骨造（S）
■鉄筋コンクリート造（RC）　□壁式鉄筋コンクリート造（WRC）
□鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）　□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）
□プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）　□
（4）階　数
~~地　下　階~~　地上 2 階　塔屋　階
~~地　下　階~~　地上　階　塔屋　階
（5）主要用途　運動競技施設（観覧場）
（6）屋上付属物
□高 架 水 槽　　kN　□キュービクル　　kN　□広告塔　□避 雷
（7）特別な荷重
■エレベータ 13 人乗（マシンルームレス -ロープ式―油圧式）　□リフト　kN　□ホイスト　kN
□倉庫積載床用　　N／m²　□貯水槽　kN　□
（8）付帯工事
□門柱　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□　□
（9）増築計画　□有（　　）■無
（10）構造計算ルート　X方向ルート　3－（ ）　Y方向ルート　3－（ ）

2．使用構造材料一覧表

（1）コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm²	品質管理強度 Fq=N/mm²	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	■普通	18	18	15又は18	
土間コンクリート	■普通	18	18	15	
基礎・基礎梁・床	■普通	27	30	15	
柱・大梁・小梁・壁	■普通、□軽量	27	30	18	比重
デッキプレート床	■普通、□軽量	18	21	15	比重
外大コンクリート	■普通、□軽量	18	18	15	比重
地中梁の防湿	□ 砂	□ 山砂	□ 人工	□	
基礎材の防湿	□ 砂利	□ 砂利	□ 人工	□	
水中部分	□ 水道水	□ 地下水	□ 工業用水	□	
型枠材料の種類	□ 化粧木肌		□ 高性能AE減水剤	□	
呼び強度を超える材料	□ 7日		□ 56日	□	

（2）コンクリートブロック（CB）
□A種　□B種　□C種　厚□100　□120　□150　□190

（3）鉄　筋

	種　類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295A	D10～D16		■重ね継手
	□SD295B			
	■SD345	D19～D29		□ガス圧接継手
	□			
				□特殊継手
高強度せん断補強筋	□			（　　）
丸　鋼	□SR235			
溶接金網（JIS G 3551）	□			

（4）鉄　骨

種　類	使用箇所	現場溶接	備　考
■SS400　□SM400　■SN400A, B　C		□有　□無	
□STKR400　■STK400　STK490		□有　□無	
□BCR295　□BCP235　□		□有　□無	
■SM490A　■SN490B　□SN490C		□有　□無	
■SSC400　□		□有　□無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

（5）ボルト
■高力ボルト
□普通．F10T　■S10T　□認定品（■M16、■M20、■M22、□M24）
■中ボルト　　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　□ 否
M　　M　　高力ボルト導入張力確認試験　□ 要　□ 否
■アンカーボルト　※柱脚リストによる。
□SS400　M　　L＝　　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
□　　M　　L＝　　mm　ナット（□シングル、□ダブル）
■座付スタッドボルト
19φ＝　L＝100mm　使用箇所（□柱　■大梁　□小梁）
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

（6）屋根、床、壁
□ALC版　　厚　　□スライド構法　□ボルト止め構法　□ロッキング構法
□折　板　　H＝　　厚
□デッキプレート　　厚式　　厚
□キーストーンプレート　　厚式　　厚
■特殊デッキプレート　JFE鋼材QLデッキ（QL99-50-1.2同等品）
□

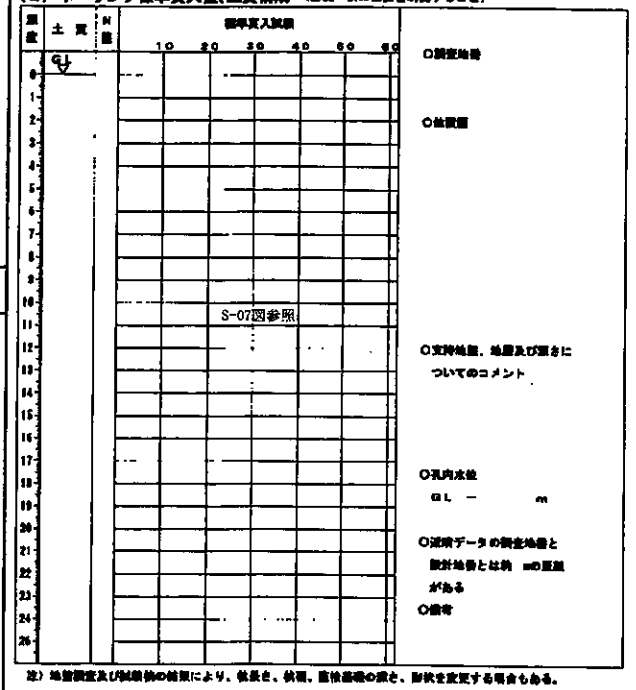
3．地　盤

（1）地盤調査資料と調査計画
■有　（■建築地内　□近隣）　　□無　（調査計画　□有　□無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験		
水平地盤反力係数の設定	○		土質試験			物理探査		
試験杭（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定	○	
スエーデン式サウンディング			現場透水試験			PS検層		

注）上記表中の資料があるもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（2）ボーリング標準貫入値、土質構成　（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び杭施工の結果により、杭長さ、杭種、直径基礎の変さ、形状を変更する場合もある。

4．地業工事

（1）直接基礎　□ベタ基礎　□布基礎　□独立基礎　試験掘　□有　□無
掘さ　GL－　m、支持層－　長期許容支持力度　　kN／m²　地質試験　□有　□無
（2）杭基礎　支持層－ GL-12.0m以深の石灰岩・シルト混じり砂礫層

杭種	材料	施工法	番号
□RC　□PRC ■PHC　□PHP □鋼管　□単独杭 □SC杭　□	PRC(□I種、□II種、□III種) PHC(□A種　■B種　□C種) 鋼杭　□SS400　□SKK400 □	掘打ち込み □埋込み　（セメントミルク工法）	
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc　N/mm² スランプ セメント量　kg/m³ 骨　材　主筋　3D 　　帯筋　3D	□オールケーシング　□拡底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル　□ミニアース □SH　□無孔　（□手掘 □機械掘	認定番　号 年　月　日 認定番　号 年　月　日

杭仕様　■施工計画書参照　■杭施工結果報告書
試杭杭　（■有・□無）　（掘打ち込み・■掘削・□孔底固定）　本

杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項
		S-08図参照		

5．鉄筋コンクリート工事　（施工方法等計画書）

本標準仕様及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度（Fc）が３６N／mm²以下に適用する。

（1）コンクリート
■ コンクリートはＪＩＳ認定工場の製品とし、施工に関しては、標準図に記載されている事項を除きＪＡＳ５によること。
■ 耐久設計基準強度　Fd　□一般　□耐久　□長期
■ セメントは、ＪＩＳ Ｒ５２１０の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物総量は、原則として工事現場で（財）建土質技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の装着後一個の測定ごとに撮影した写真（カラー）を提督し承認を得る。
測定装置の精度は、通常の場合、１日１回以上とし、１個の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３個行い、その平均値を試験値とする。
■ 鉄筋コンクリートについて現場の圧縮強度試験供試体（ＪＡＳＳ５Ｔ－８０３）は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打込み量が１５０m³を超える場合は１５０m³ごとまたは、その端数ごとに一個を採取とする。一個に採取する供試体は、連続な同時を含いた３台の運搬車からその各車本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、１個当り６本以上とし、そのうち４週用に３本を用いる。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリート分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技量を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１５０分以内、２５℃以上の場合は１２０分以内とする。

（2）鉄　筋
■ 鉄筋はＪＩＳ Ｇ３１１２の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、ＪＡＳ５によること。
■ 高強度せん断補強筋は、ＪＩＳ Ｇ３１３７に規定されるＳ個１号溶金品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。
■ Ｄ１９未満は、すべて重ね継手とする。継手（Ｄ１９以上）をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
■ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと（２００箇所を超えるときは、２００箇所ごと）に１個行い、１個の試験は５本以上とする。
外観検査　■有　□無　引張試験　■有　□無　曲げ試験　■有　□無
■ 金の帯筋（ＨＯＯＰ）の加工方法は、□Ｈ型（タガ型）　■Ｗ型（溶接型）　■Ｓ型（スパイラル型）とする。
■ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都建築基準」第４条の試験機関で行うこと。
試験機関名　　（認知事業者　　号）
代行業者名
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（3）型　枠
■ 材料　合板厚　１２mmを標準とする。
■ 施工　ＪＡＳ５による。
□ 型枠存置期間

セメントの種類 / 平均気温	柱、はり側、壁、目		スラブ下、はり下		支　柱		
					スラブ下		はり下
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 混合セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 混合セメントA種 シリカセメントA種
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	15	15	28	28
コンクリートの基礎圧度	５０N/mm²		設計基準強度の５０％		設計基準強度の ８５％		９０％

注）１　片持ばり、庇、スパン９．０m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注）２　大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
注）３　支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）４　盛りかえ後の支柱頂部には、敷い受板、鳥居または、これに代わるものを置く。
注）５　支柱の盛りかえは、小ばりが硬ってから、スラブを打う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注）６　上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■ 日本建築学会「ＪＡＳＳ６」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■ 鉄骨製作管理技術者並骨組積「完全な継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（2）工事監理者の承認を必要とするもの
■製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書
■認定または登録工場（大臣認定　　グレード　　登録番　T1　T2　T3ランク）
■材料価格証明書または試験成績書
■鋼材　■高力ボルト　■特殊ボルト　□頭付スタッド
□社内検査表　□　□

（3）工事監理者が行う検査項目
（自社以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
■現寸検査　■組立・現地検査　■製品検査
■溶接検査　□　□

（4）接合部の溶接は下記によること
■ 鉄骨溶接の建築物の工事に関する東京都知事登録（建築鉄骨溶接部第１２業）
■ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説」、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ」
■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

（5）接合部の検査
■ 溶接部の検査（検査結果は検査日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 社内	第三者	工事監理者	備　考
■完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（当）	％ 個	％ 個	％ 個	※平成13年建設省告示第1464号第二号による（直接及び計画）
■	超音波探傷検査	％ 個	％ 個	％ 個	
■	内質検査（当）	％ 個	％ 個	％ 個	
■	マクロ試験・その他	個	個	個	
□	外観検査（当）	％ 個	％ 個	％ 個	
第三者検査機関名		（認知事業者　　号）			

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために同ら選択した検査会社をいう。
（注）東京都の受検に基づき、必要となる建築物の場合に実施する。

注１）現場溶接部については検査として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を１００％行うこと
注２）仰き勾配の主要な不具合が発生した場合は、是正後に特に指定する箇所全数に検査すること
□ 内質検査　□ 磁気試験　□ 半里超探傷等
■ 高力ボルトは「ＪＩＳ Ｂ１１８６の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、塵外に自由放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが６０S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
■ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付け力の管理は個材が十分信頼するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に定めた締付けが行なわれているか検査する。

（6）防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、□ＪＩＳ Ｋ５６２１、□ＪＩＳ Ｋ５６２５、□　　を使用して、４つ星３回塗りを標準とするが、現状に応じて決定すること。
■ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の摩擦面は入念に行い、摩擦は工事管理と同じ錆止めペイントを使用して２回塗りとする。

（7）耐火被覆の材料
□

7．設備関係

■ 特記以外の設備基礎は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの１／３以下とし管の間隔を管径の３倍以上かつ５cm以上を原則とする。

8．その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■ 各試験の供試体は当該試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■ 必要に応じて配筋写真を撮り提督すること。
□

	設計	沖縄市体育館建設工事 ■（有）ウイング建築設計事務所　■ 建築研究室　匠斎庵 ■ ＧＡ企画設計　　共同企業体	（有）ウイング建築設計事務所 事務所登録：第１９６－５９８号 所在地：沖縄県沖縄市山内４－２０－１ 電　話：(098) 933-5488　FAX (098) 933-5893 管理建築士：１級建築士登録　第１９４９４２号 具志堅　達　印	監理	（有）みき建築設計 事務所登録（知事）第101-946号 沖縄市美里５丁目２３番１０号 ＴＥＬ（０９８）９３８－２２０８ 一級建築士　第１９４９６４号　大城　直樹	工事名称　沖縄市体育館建設工事（建築工事） 工事場所　沖縄市越見里二丁目１番１号 図面名称　構造設計特記仕様	承認年月日　．． 縮尺　1/— (A3版1/—)	図面番号 S－01